

地球平均気温のベストな指標

海水準変動の指標の確立から大衆
運動へ

丸山茂徳

1 地球温暖化人為起源説を何故
国連が信じ、世界各国はCO₂地下
貯留に邁進するのか？

移行期の特徴: 知的カオス(誰も世界全体の現状が理解できない、故に未来が見えない)

● 広く一浅くの確信犯科学者や啓蒙家の出現→マスコミ帝国主義時代へ

● 科学者(共同体)の崩壊(疑似科学の横行: 串刺し科学; 研究史を誰も理解しない)

例: 地球温暖化人為起源説、SDGsの概念の横行、日本の崩壊(生贄)を加速させよ!



答え = 要素還元主義科学（学会数 > 1万）
の時代

誰も科学の全体を把握できない時代

- マスコミは専門家の意見しか聞かない（気候変動は超学際科学にもかかわらず）
- 気象学会は過去100年しか観測データがない
- そのデータに基づいてスパコン神話を政治利用

基礎科学研究者：ますます専門細分化

- 基礎科学研究者は研究史を忘れ、自分の狭い専門性で学位をとり、ますます近視眼的になる→彼らが次の指導教官へ、を繰り返す
- IoT時代が加速して、その技術を覚えないと世間から脱落する：その恐怖がますます超専門性へと駆り立てる
- 一方で、マスコミ商業主義→全体の俯瞰番組を創り、間違いだらけの番組(NHK)が横行

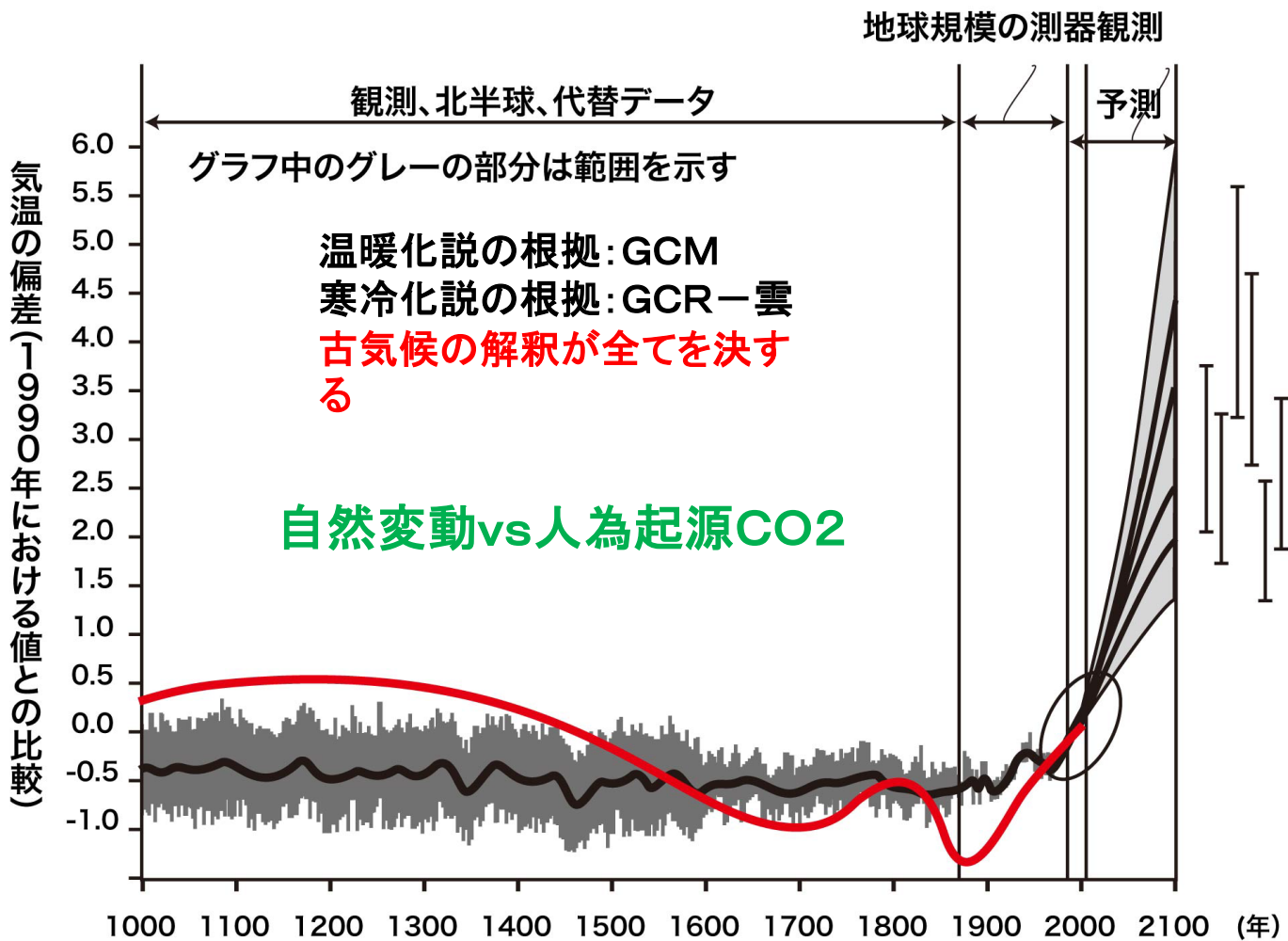
ではどうするか？

誰にでもわかる地球規模の啓蒙運動を進める：鍵は「共に学ぶ喜び」

2 地球気温は定義できるか？

- 地球平均気温は理解しやすい観念
- しかし、深く考えると定義不可能（昼、夜、四季、雲、雪、赤道、北極、南極、海洋、陸一、高度、海流、大気の流れ、生物相、砂漠、湿地帯他）
- しかし、間接的には定義できる

IPCCによる過去1000年の古気候と21世紀の予測

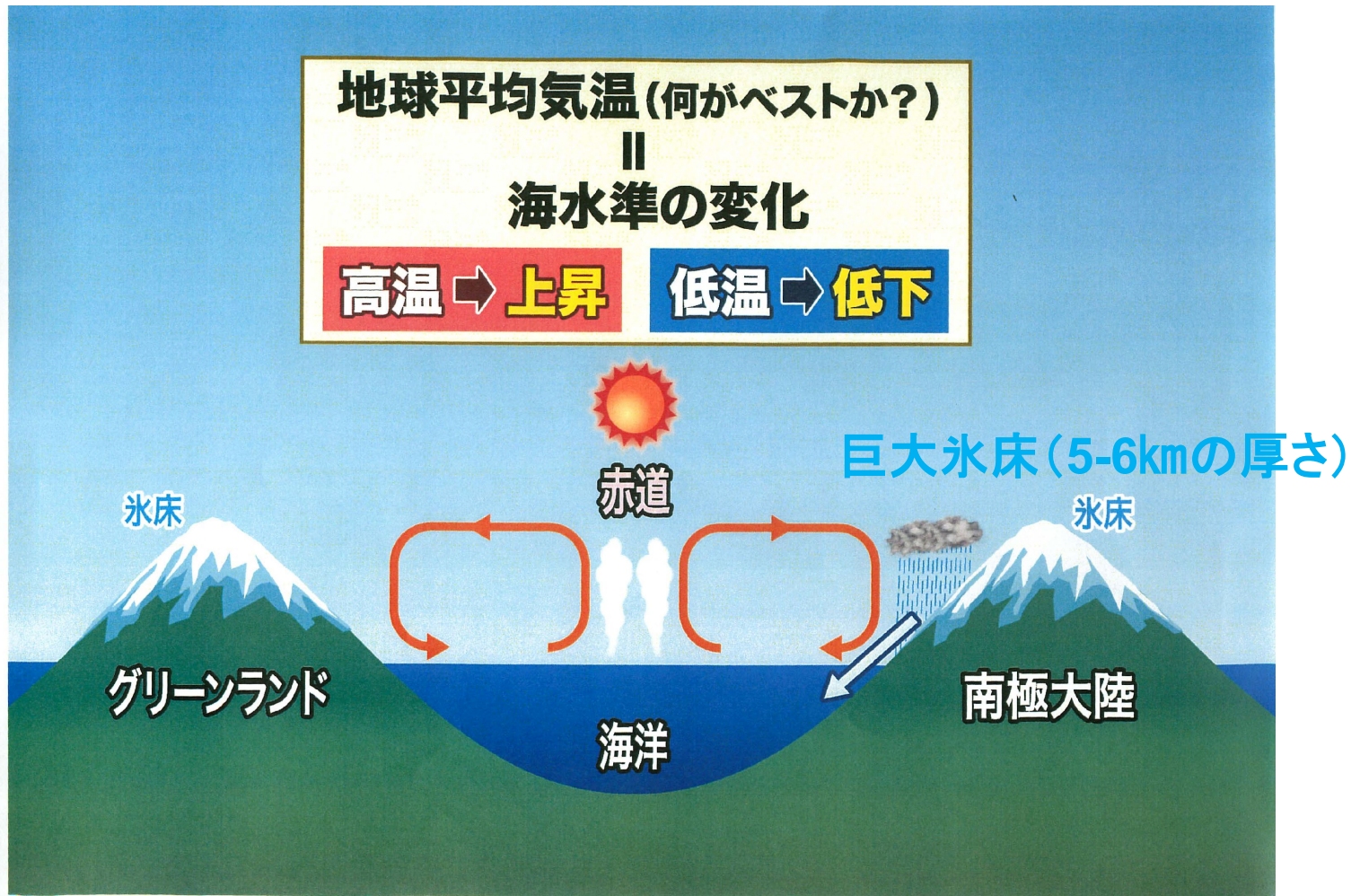


右上の棒線はいくつかのモデルによる
2100年の予測結果の範囲を示す

地球史46億年間の気候の歴史

- 地球の気温；大気のCO₂:最高で20,000ppm(石炭紀、大森林、しかし、氷河期の時代)、白亜紀は4,000ppmで北極と南極には氷河が無かった(恐竜の時代)
- 全球凍結の時代(平均が+40°Cから-40°Cを繰り返した、CO₂濃度とは無関係)
- 現代は氷河期の時代；しかし、気象学者は、地球が金星化(表面温度は500°C)すると警告をならし、全ての国家が同意した？

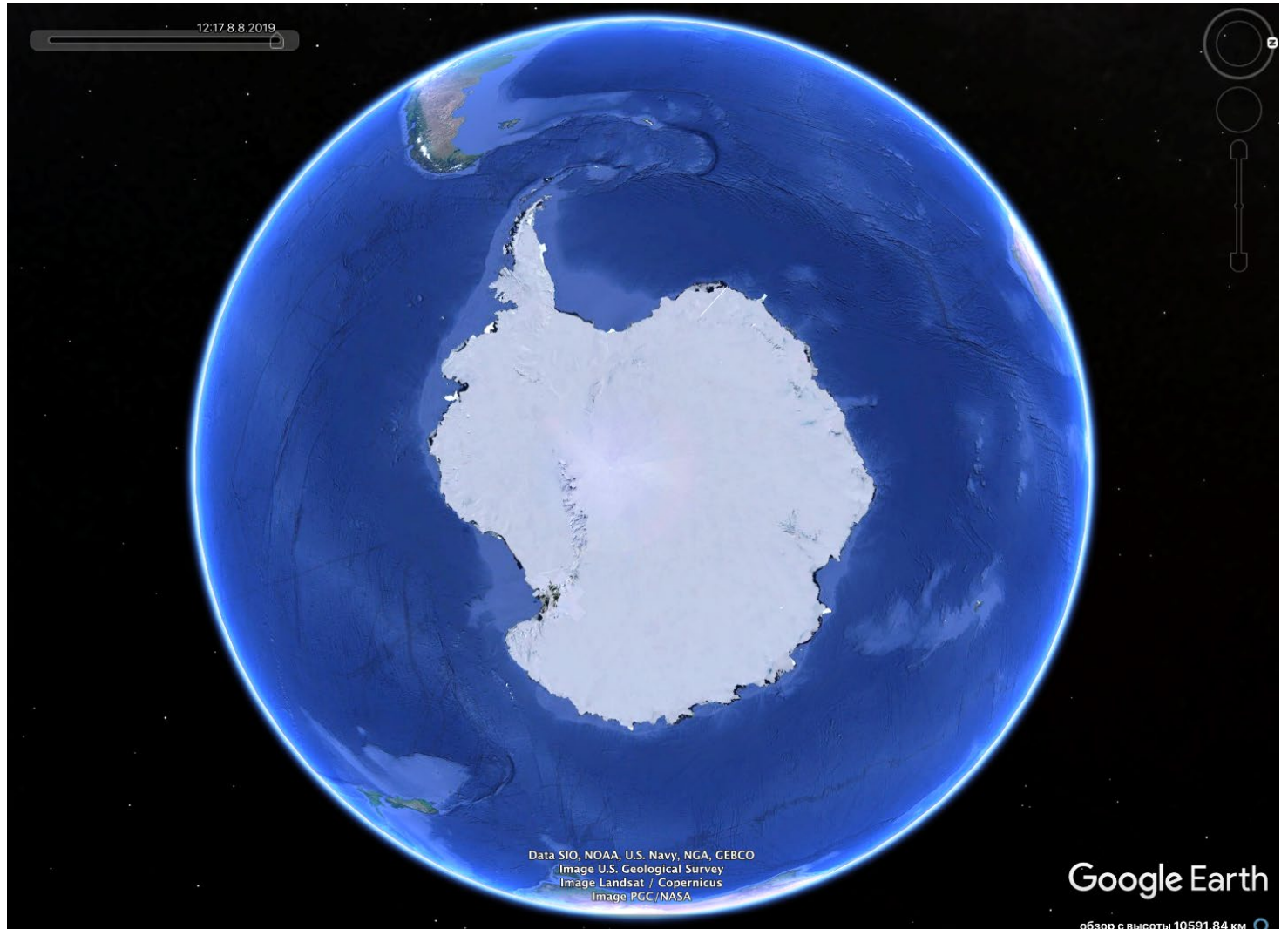
地球平均気温は海水準の位置に対応する



南極大陸（地球最大の氷床）

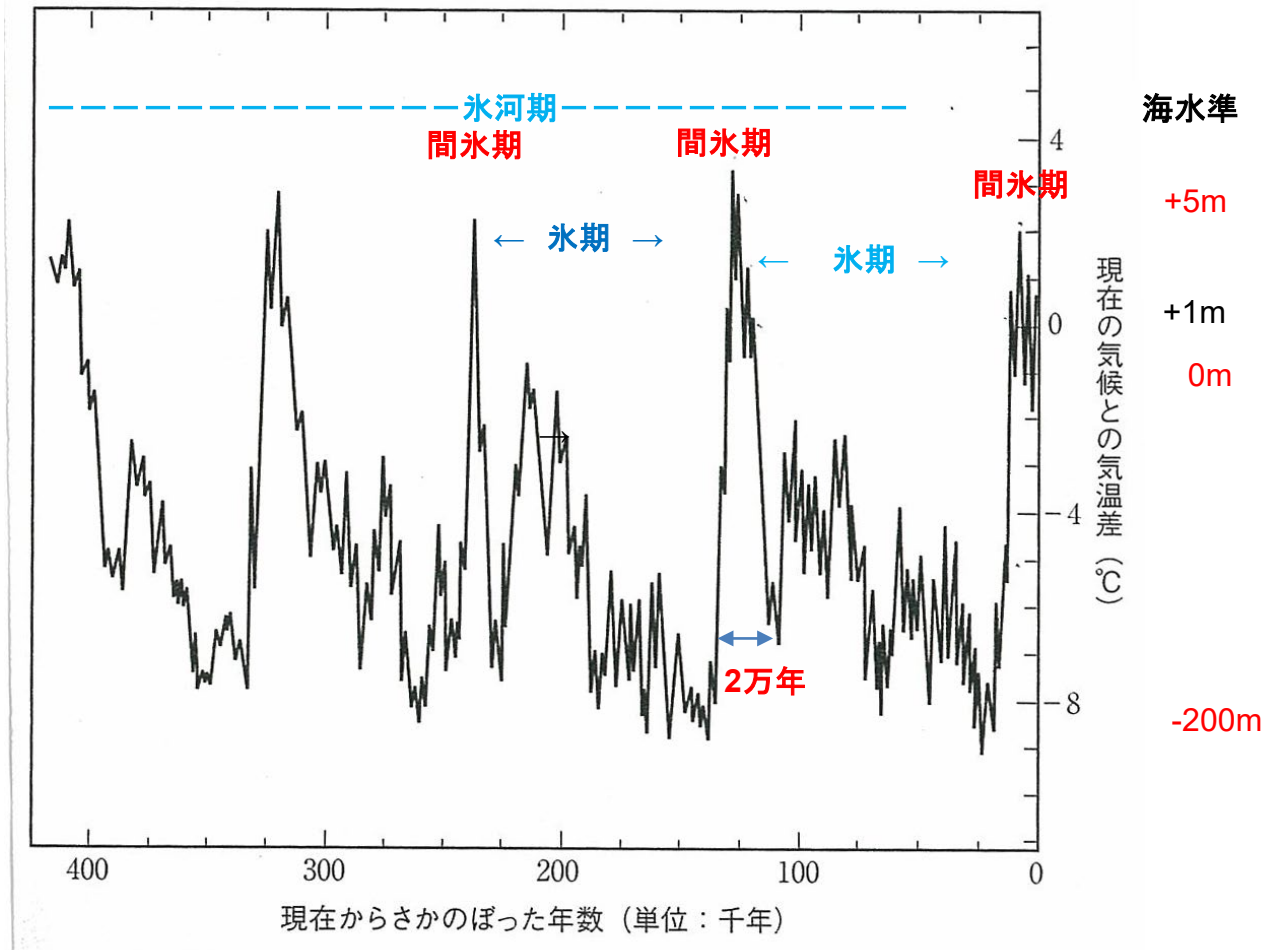
- その質量の論争vs過去の海水準変動（300m以上の海水準上昇vs 100m程度の論争：地質学的な証拠が決着を付ける）
- ロス棚氷が崩壊中（マスコミが強調してきた）
- （真相はハワイクラスのホットスポット火山＋氷床下の火山列：約200の火山列が南極半島へ続く；高い地殻熱流量が原因）→大気が高温になって氷床が暖められたのではない。下から温められたのだ！
- 氷雪の増加とロス棚氷の融解がバランス（動的平衡）して過去1万年の海水準はほぼ一定

最近の発見：ハワイホットスポットに匹敵する火山列



人類は東の間の間氷期（異常に安定した気候の時代1万年間）に文明を構築した

- 現代はいつ氷河期に戻ってもおかしくない時代
- 困るのは高緯度地域（食糧生産大ピンチ）
- 異常気象は寒冷化の予兆



ミランコビッチ周期は存在しない ← 寒冷化開始までまだ1,000年は大丈夫？

- 氷期と間氷期の変化は海水準が200 – 300mも変化した筈（たった2,000年以内の時間で）

- この事実は、19世紀の後半から20世紀半ばまでに研究は終了（地質学最大の成果：英国中心）→皆さんご存知ですか？

- この地質学最大の成果が何故、教科書から消えたのか？

- 5回繰り返した海水準の大変動で何が起きたのか？

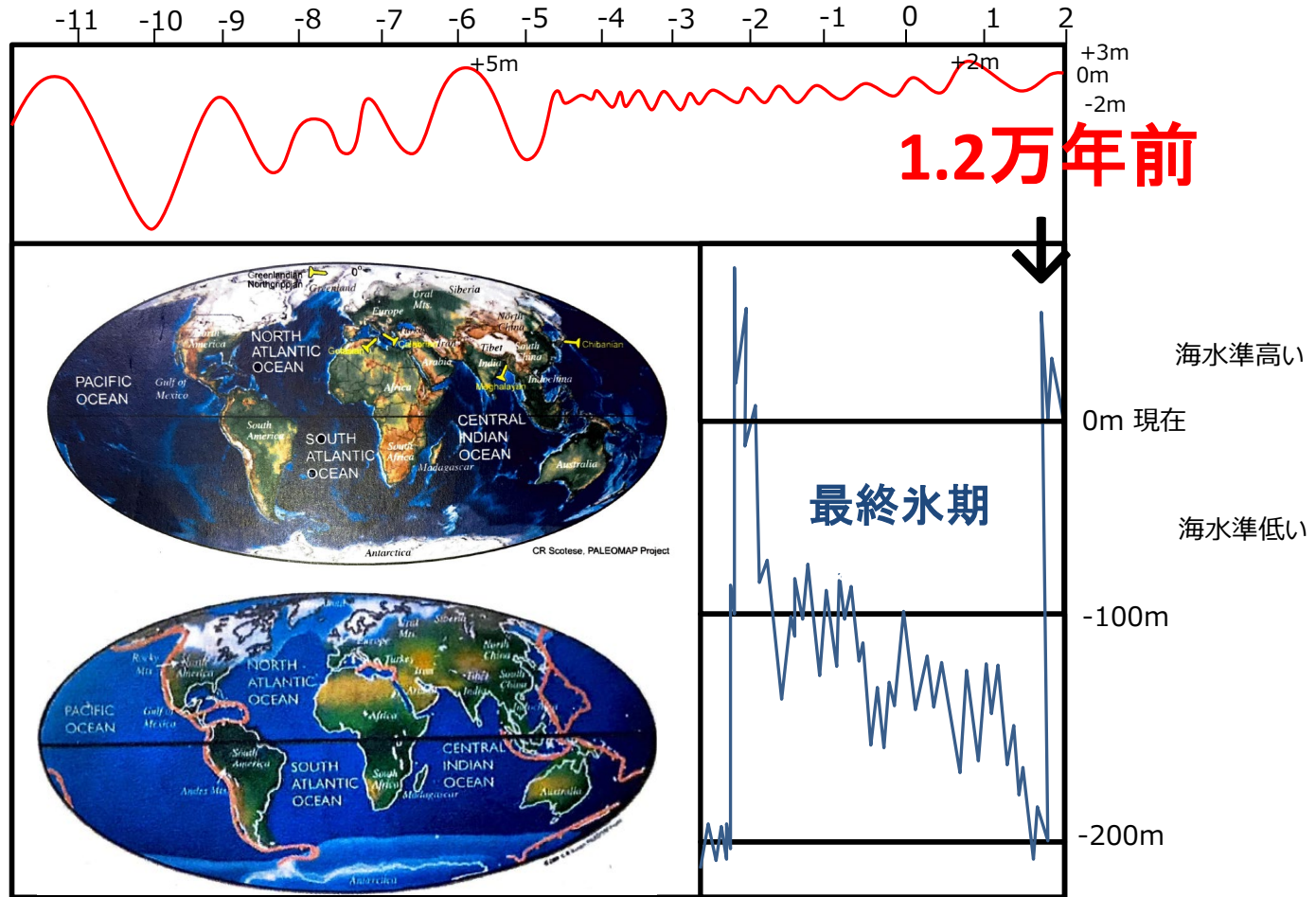
答え = 陸上の大量の土砂（大量の生物の死骸 = 有機肥料）が河口に運ばれ、肥沃な土地が生まれた→

- 世界の4大文明の誕生（全て巨大河川の河口で農業と牧畜を発明して人口の大爆発→文明大発展の礎）

次が未来予測(警告学)

- いつ寒冷化するか？
- 寒冷化すると生物の総量が減少する→大戦争へ
- 逆に温暖化は歓迎
- どのようにして未来予測するか？
- その前に、地球平均気温を正確に調べよう！

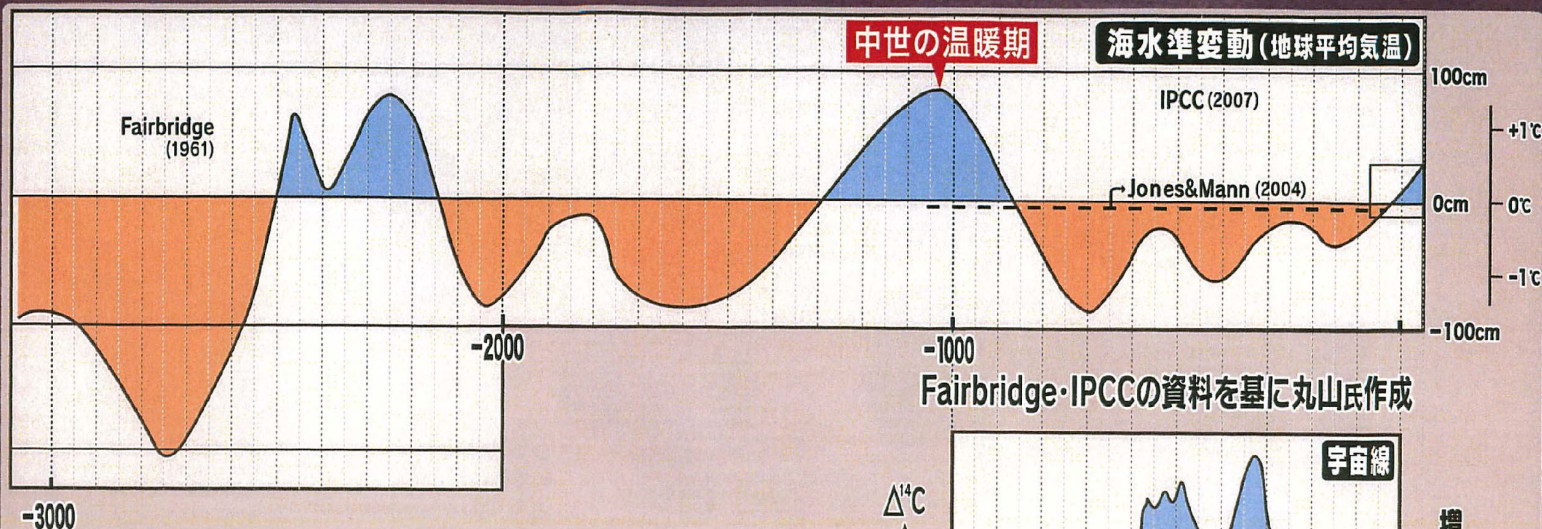
最終氷期（1.2万年前）の前後で200mの海水準変化



ユーラシア+北米の北半、北極、南極の氷床が後退して海水準が200m上昇
 気温はグリーンランドで8°C上昇→1°C=25メートル(注) グリーンランド8°C=地球平均
 に直すとたったの1°Cにすぎない→IPCCの嘘は明白！

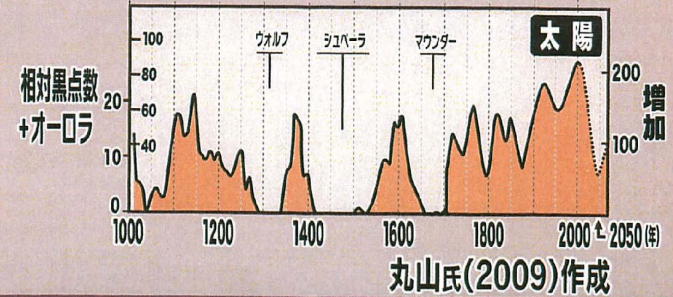
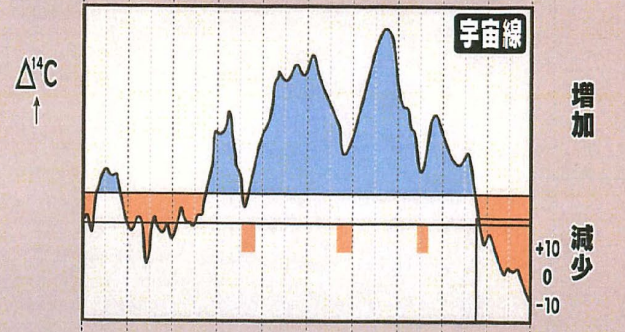
現代は氷河期：世間はこれを忘れて
いる（全地球史の中で10%しか
ない寒い時代）

しかもいつ寒冷化してもおかしくない
時代



Fairbridge・IPCCの資料を基に丸山氏作成

地球平均気温のベスト指標は
海水準変動曲線



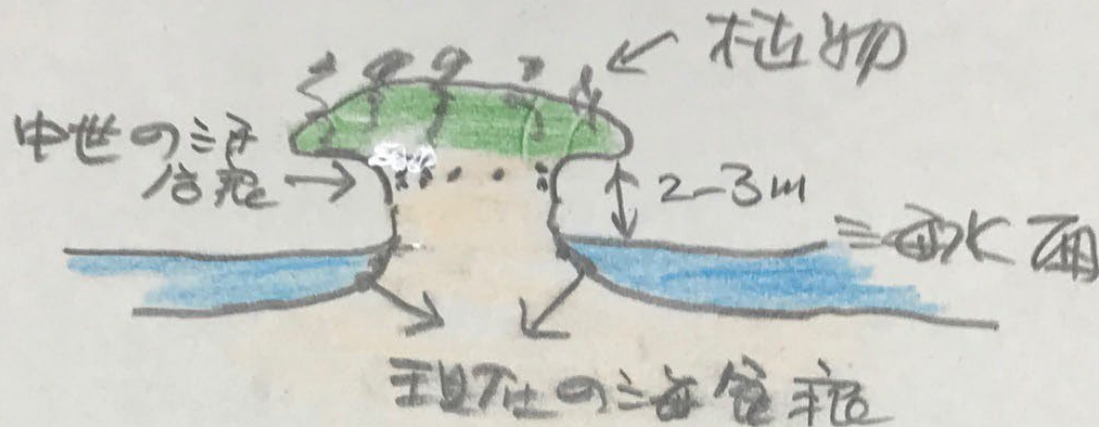
丸山氏(2009)作成

過去1,000年間の海水準の位置を調べよう(夏休みの宿題)

- 原理: 海岸で進行中の浸食地形と海蝕痕
- パラオ島のキノコ状の形と海蝕痕(現在の海的位置から2-3m上=中世の温暖期)
- これを地球規模で手分けして世界地図にプロットしよう
- SNSで発信して中世の温暖化の時代と江戸時代末期の寒冷化の時代の海水準をグローバルに決めよう(添付世界地図にその地点を書き込む+証拠写真)
- その結果とIPCCの復元と比べよう

パラオ諸島の観光案内パンフレット

パラオ島のサンゴ礁の島



数m下位に江戸時代の小氷期の海底面がある筈；海底地質学

江の島の崖

縄文海進海蝕痕：+6m



←中世の海蝕痕：3m







現在の満潮時の海面

伊能忠敬の海岸線（西暦1,800-1,817年）

- 東京湾のサイズ、下北半島の湾のサイズほか
- 霞ヶ浦/浜名湖＝淡水、中世には塩水
- 瀬戸内海の島：屋島は高松と陸続き（源平合戦の時代は島：奈須の与一の扇の的＝1,150年頃）
- 当時の海岸線は現在どこにあるか（海面下2m＝探せ海蝕痕！）海底地質学（たった数mでも海底に宝の山が転がっている）

地學雜誌

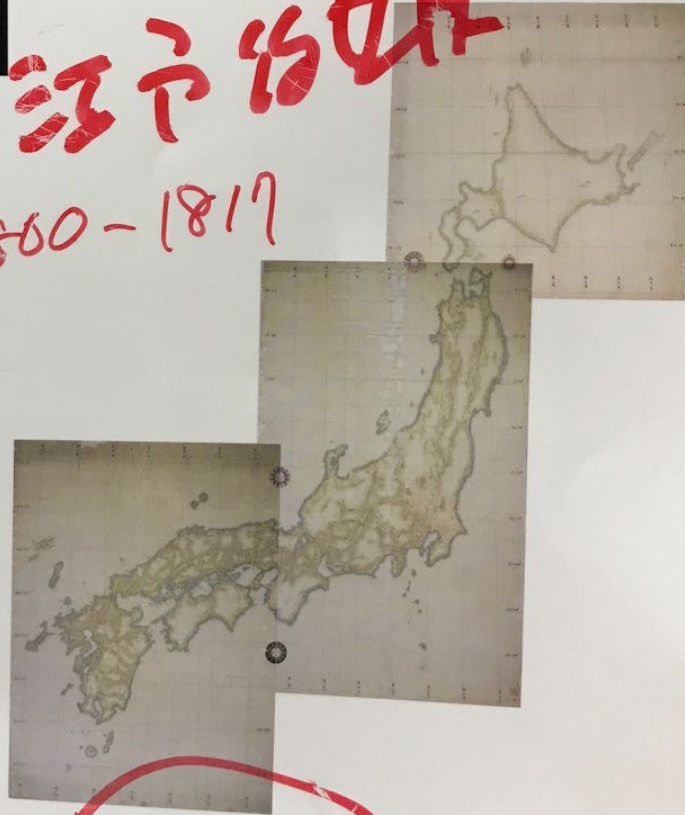
JOURNAL
OF
GEOGRAPHY

東京地学協会
TOKYO GEOGRAPHICAL SOCIETY
Founded in 1879

江戸の地

1800-1817

2020
VOL. 129
NO. 2



特集号：伊能忠敬
Special Issue: Inoh Tadataka

1.2-1.0万年前：最終氷期から温暖化へ

- 海水準が200m上昇して現在のレベルになった
- 1.2万年前の世界古地理図の復元計画
- 鍵は最終氷期の海水準で、200m深度の大陸棚斜面のトップ（サンゴ礁に南北方向に2,000－3,000km続く巨大海蝕痕；北欧地質学者－生物学者合同体が発見；シーラカンスの棲家）

東アジアと日本

- 最終氷期の海水準は-200m(大陸棚の縁)
- 1960年頃に古生物学者達が東アジア大陸の陸地復元: 日本海は湖、北海道—東北—西南日本—琉球—台湾(+東シナ海はアジア大陸化)
- 間氷期には現在と同じ地理(琉球諸島は小さな島列)
- すると、氷期と間氷期(現在)の古地理が5—6回繰り返した(約10万年周期)→動植物の孤立進化と冠進化の繰り返し(ガラパゴスも同じ):進化論と直結する(古気候から進化論へ;子供を育てる)
- 超学際の新時代を我々が創り出す!

1.2万年前の東南アジアからオーストラリアの古地理図

- 海水準を-200mにして世界地図を描こう
- するといろいろなことが見えてくる！
- ①世界の陸地が120%増加する
- ②オーストラリアがインドネシア地域を介してアジア大陸と繋がる(僅か)
- ③日本列島は台湾、アジアとつながり、日本海は湖になる
- ④ガラパゴス諸島は一つの島になる
- この状態と現在(例えば琉球諸島)の状態が5-6回繰り返した→生物の生息環境が大変化(孤立進化と冠進化の繰り返し)

終り